



四国西予ジオパーク
SHIKOKU SEIYO GEOPARK

愛媛県指定史跡

穴神洞穴遺跡

(あながみ・どうけつ・いせき)

所在地：愛媛県西予市城川町川津南

1. これまでの経緯

穴神洞穴遺跡は、昭和 36 年（1961）に愛媛大学ケイビング会が洞穴を探検中に縄文土器を採集したことがきっかけで発見されました。昭和 45 年（1970）から 3 回にわたる発掘調査が実施され、その重要性から昭和 51 年（1976）に愛媛県の史跡に指定されました。

2. 遺跡からなにが見つかったか？

発掘調査では、上部の洞穴入口が調査され、そこには大きく分けて 8 つの土層が堆積していることが確認されました。これらの土の中から縄文時代草創期、早期、後期の遺物（当時の道具など）が見つかっています。

もっとも下の層からは、^{びりゅうきせんもん}微隆起線文土器と呼ばれる縄文時代のはじめころの土器が見つかっています。県内では久万高原町（旧美川村）の上黒岩遺跡に次ぐ縄文時代でも非常に古い時期の土器として知られています。

また、貝でできた装飾品（アクセサリー）も見つかっていて、その多くが海岸部で採集されたと考えられています。ツノガイの装飾品が出土した埋葬遺構や骨角器、動物の骨なども見つかっています。



写真 1 穴神洞穴遺跡



写真 2 微隆起線文土器



写真 3 サトウ貝製のアクセサリー



写真 4 タカラ貝製のアクセサリー

3. 洞穴・岩陰遺跡の数は四国一

意外と知られていませんが、四国にある縄文時代の洞穴遺跡、岩陰遺跡の約 4 割が西予市に集中しています。これは四国で最も多い数です。西予市では、弥生時代から古墳時代、古代の遺跡が宇和盆地に集中していますが、それ以前の縄文時代の洞穴遺跡や岩陰遺跡は、城川や野村に集中しています。

4. 遺跡から何がわかるか？

穴神洞穴遺跡は、目の前に川が流れ、川よりもやや高い場所にある洞穴に立地しています。市内の洞穴・岩陰遺跡の多くも同じような環境にあります。火を使い土器を焼くことを覚えた縄文人は、雨露をしのぐ生活の場として、時には亡くなった人を大切に葬る場所として洞穴や岩陰を利用したのです。また西予市城川町古市の中津川洞穴遺跡（県史跡）は、石器を作った場所と考えられています。

穴神洞穴の縄文人は、森でドングリなどを採集し、川で貝や魚を採り、土器で煮炊きをしていたのでしょうか。時には石の鏃（やじり）を使った弓矢で野ウサギや、猪、鹿などの狩りをしたり、川の魚や貝などを捕って生活していたと考えられます。また海でとれる貝を海辺のムラから手に入れていました。山間のムラと海辺のムラの交流があったのでしょうか。

草創期に死滅していたとされたオオツノシカの歯牙が出土しており、この穴神周辺にはまだ生息していたと考えられます。

早期には、現在の繊維とは異なりますが、固い押圧の織物の繊維痕が残存しています。この時期に、織物道具や技術が存在していたことの証明となります。

1万5000年前	草創期
1万1300年前	早期
7300年前	前期
5500年前	中期
4500年前	後期
3300年前	晩期
2500年前	

縄文時代の時期区分
(斜線部が穴神洞穴遺跡の時期)



写真 5 ツノ貝製のアクセサリー



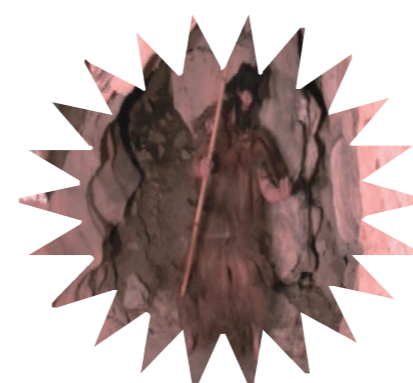
写真 6 イタヤ貝



写真 7 石の鏃（やじり）

元快衆樂の里 一万年の歴史散歩

川津南へようこそ！



私たちの故郷「川津南」には様々な資源があります。穴神洞穴などの遺跡や、西方寺楽念仏などの伝統文化、受け継いできたお祭りや新たなイベントなど...豊かな自然・人(ひと)とのつながり。これらを地域の資源として守り、活かして、明るく楽しく生き生きとした集落づくりを行なっています。

1 穴神洞穴遺跡・鍾乳洞

2 三柱神社石段と社殿

3 勤皇の志士坂本龍馬脱藩の碑と大門峠

4 西方寺楽念仏(八月第一日曜)

5 ピザ釜

6 程野茶堂

7 安尾茶堂

8 坂本龍馬脱藩の道九十九曲峠と龍馬の小便杉

穴神どんと焼

秋祭り(11月3日)

ビオトープ

公衆トイレは
穴神広場前と川津南高齢者等活動生活支援促進施設にあります。
AEDとピザ釜は
川津南高齢者等活動生活支援促進施設にあります。



メールアドレス：info@kawazu-portal.jp/
川津南やちみる会ポータルサイト：http://kawazu-portal.jp/